

1. 職名・氏名 准教授 東村 玲子

2. 学位 学位 博士（水産学）、専門分野 漁業経済学、授与機関 北海道大学  
授与年 2000年3月

## 3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 水産経済学（2単位 毎年開講） 2年生 （2022年度）15コマ	
② 内容・ねらい 水産業を経済学的視点で考察する素養を身につけることを目的とする。経済学の基礎理論を習得することから始め、具体的事例を挙げながら解説する。2018年の漁業法改定の解説に加え、日本の水産業の実態とTACや資源管理型漁業の理論や実態を概観し、日本の水産業の展望を理解する。ブランド理論と水産物のブランド化を紹介する。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 水産業の実態をただ「知る」だけでなく、経済学や漁業管理の基礎的理論を習得することによって、日本や世界の水産業の実態への認識と問題意識を深める様に講義を進めている。また板書を多くすることにより、理解を深めやすくしている。講義内容を自分の身の周りのことに引き付けて考察したり、講義の理解度が分かるようなミニ課題を実施。理解度が低いことが判明した場合には次回の講義の時に解説を加える。2020年施行の漁業法改定について、最新の情報を解説した。 フィールドワーク ズワイガニの漁業管理 2022年5月 兵庫県	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 国際漁業論（2単位 毎年開講） 3年生 （2022年度）15コマ	
② 内容・ねらい 漁業では同じ資源を同時に複数の国が利用することが多いため、必然的に国際問題を引き起こす。こうした国際漁業管理制度の内容とそれに関わる国際問題の実態を理解する。1995年にカナダとEU間で起きた「カラスガレイ戦争」に焦点を当てて、漁業をめぐる国家同士の紛争を解説した。また、捕鯨問題にも時間を割き、科学的な根拠に基づく漁業管理の必要性を解説した。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 実際の国際紛争の事例を概説することにより、国際漁業問題への関心を持たせる様に工夫している。特に、捕鯨問題は政治的背景や各国の主張を紹介し、学生に自分の意見を考えさせることにより「勉強」だけでなく「研究」の部分も垣間見せるようにしている。板書を多くすることにより理解を深めやすくしている。講義後には学生の意見や考察を書かせるミニ課題を課している。	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 食品流通論（2単位 毎年開講） 2年生 （2022年度）8コマ（オムニバス）	
② 内容・ねらい 「食品流通論」を学ぶ意味（食べ物の大切さ）について述べることから講義を開始し、水産物流通のしくみを概説した。その後マーケティングの基礎理論であるPPM（Product Portfolio Management）分析を紹介し、福井県のブランド水産物を事例として、この分析方法の理解を深めるように促した。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	

そもそも、講義を受講する目的を明確にすることにより、受講生に講義がどこへ向かっているのかを理解するように促した。マーケティングの理論は、実際の財（製品およびサービス）を使って解説すると非常にわかりやすいことから、敢えて福井県のブランド水産物を PPM 分析に載せて解説した。さらには自分自身の特性・趣味・活動について PPM 分析を行わせることが、これは非常に好評であったので、来年も行う予定である。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

食品流通調査演習 （1 単位 毎年開講） 2 年生 （2022 年度） 15 コマ

② 内容・ねらい

新型コロナウイルス感染症の影響のため 2 年ぶりに生活協同組合（コープこうべ）と大阪市中央卸売市場を訪問した。コープこうべでは生活協同組合の歴史と本学部卒業生による同協同組合が近年力を入れているフードロス削減についての講義を受けた。大阪市中央卸売市場朝 4 時からのセリを見学し、卸売会社である（株）大水の会社概要の概要の説明と質疑応答を行った。最後に調査結果をレポートにまとめることとした。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

調査を行うことにより流通の実態を理解するだけでなく、現場で体感することを重視する。また、実務担当者と直接話し合うことによって社会人とのコミュニケーション能力を高めるために質疑応答時間を十分に確保している。こうした積極的な質疑応答への参加が加点されることは事前に周知している。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

科学英語Ⅱ （3 単位 毎年開講） 3 年生 （2022 年度） 15 コマ

② 内容・ねらい

Takatoshi Ando 著 Naoyuki Tao and James Colyn 訳の「The Hokkaido Fishermen's Liberation Movement」を用いて、北海道における漁業協同組合の黎明期の組合運動の実態に関する理解を高めると共に英文を全訳せずに（分からない単語だけを調べて）読解する能力を身につける。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

ゼミ生には、なるべく単語だけを調べるだけの予習をしていく様に指導している。当日は、順番に本文を読み翻訳する。これにより、英語を英語として理解する能力を身につける。また、学生 1 人が翻訳終了分を次週までに日本語にて要約することにより内容の理解を助ける。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

専攻演習 （2 単位 毎年開講） 4 年生 （2022 年度） 30 コマ

② 内容・ねらい

卒業論文を執筆するにあたり、研究課題を設定と研究計画の作成から開始する。その上で、必要となる素養（経済学や流通論や調査手法）を身につけさせ、同時に研究の方法論の検討を綿密に行い、実際の論文執筆へとつなげていく。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

研究課題の設定にあたり、可能な限り学生の自主性を尊重している。今年度はズームによる指導が多く、指導において歯がゆい面が教員・学生の双方にあった。実際に予定していた調査が新型コロナウイルス感染症のために断られる、という事態は全ての学生で生じた。最後には全体で自分の研究の成果を発表することによりプレゼンテーション能力をつけることも目的としている。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

海と暮らし （2 単位 毎年開講） 1 年生 （2022 年度） 1 コマ

② 内容・ねらい

「水産物のブランド」というサブタイトルである。2021 年度は、県内の高校生にも公開される講義として Zoom で実施した。福井県で最も有名である「越前がに」について、そもそも「ブ

ランドとは何か」ということから始め、越前がにがブランド化に成功していること、またその成功の理由について、主として消費者へのアンケート調査での結果を基に解説する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

最初に誰でも知っているようなブランド品を挙げて（マクドナルドのような大衆ブランドも含む）、ブランド理論の基礎を説明して、学生の興味を惹くことから始め、福井県外出身者はもとより県内出身者でも実際には食べたことがない「ふくいサーモン」のブランドを実現していることを解説する。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

水産政策学特論（1単位 毎年開講） 修士課程 （2022年度）8コマ

② 内容・ねらい

漁業に関する政策のうち、今日的な論点を取り上げて、理解を深めることを目的としている。そのため、漁業管理の手法である、個別割当（IQ）や譲渡可能個別割当（ITQ）の理論を理解する。この他、日本近海のクロマグロの漁業管理や漁業法改定も取り上げる。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

トピックとトピックの間に、それらに関する「ディスカッションテーマ」を提示し、学生が自主的に発言する時間を設けることにより、自分の意見を考えると共に他の人の意見も聞く。なお 2018 年度は講義中にクロマグロの漁業管理や水産政策について水産庁から新しい政策が打ち出されたので、私が出席した会議での議論などの最新情報を基に解説したのが好評であった。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

海洋社会科学（2単位 毎年開講） 修士課程 （2022年度）8コマ（オムニバス）

② 内容・ねらい

水産業は重要な食料産業であると共に、それを支える漁村は様々な機能を持っているため漁村の活性化と漁業振興は両立すべきである。また近年は日本近海、遠洋での各国との国際的な問題も漁業経営に影響を与えている。かかる視点から日本の水産業をグローバル・ローカル両方の視点から考察して行く。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

水産白書をテキストとし、各受講生に1章ずつ担当してプレゼンテーションを行ってもらった上で、私が水産庁の委員として水産白書作成に携わっていることを活かして、解説を行った。学生によるプレゼンテーションは自分の担当部分の理解に役立ち、他の学生の担当部分はプレゼンテーションの方法を学ぶのに有益だったと学生から好評だった。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

卒業論文（8単位 毎年開講）4年生 （2022年度）

② 内容・ねらい

卒業論文を執筆することは、4年間の当学科での勉強・研究の集大成であることを自覚させ、また設定した課題に自主性をもって取り組むことにより物事を多面的に考察する能力を身につけさせることを目的としている。さらには執筆の過程において、研究のまとめ方を身につけさせることもねらいとしている。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

従来と違い、担当教員によって研究分野と研究手法が異なるために4月には指導担当教員を決定した。担当教員を決めた後は、週に1回ずつ、私が担当する学生3名と私の4名でゼミを行い、それぞれに研究テーマについてディスカッションを行う。お互いの進捗を測る上でもこの方式が良いと学生と相談して決めている。1月以降は、個別指導を行い、卒業論文を完成させることとしている。

(2)その他の教育科目

公開講座「ふくいサーモンの販売戦略ーマーケティングの基礎理論ー」（2022年6月22日）

開放講義 仁愛女子高等学校 「マーケティングの基礎理論－ふくいサーモンを事例に－」  
(2022年12月8日)

#### 4. 研究業績

(1)研究業績の公表
① 論文 1*「漁業者による自主的漁業管理の意思決定過程－2018年度日本海A海域ズワイガニ漁業を事例として－」共著者なし『漁業経済研究』第67号第1号受理(印刷中) <b>【1本】</b>
② 著書
③学会報告等 1*「日本海A海域ズワイガニ漁業の自主的規制の実態」地域漁業学会第64回大会(2022年11月)単独報告:東村玲子 <b>【1本】</b>
④その他の公表実績 1. テレビ朝日「羽鳥慎一のモーニングショー(2022年11月14日)」米国アラスカ州のズワイガニ漁業禁漁に関してコメント
(2)学会活動等
学会での役職など(学会名) 漁業経済学会 理事 地域漁業学会 理事 地域漁業学会 国際交流委員 地域漁業学会 中国北陸部会部会長 国際漁業学会 理事 国際漁業学会 学会賞選考委員
(3)特許等取得
(4)外部資金・競争的資金獲得実績
(5)特許出願

#### 5. 地域・社会貢献

(1)学外団体
①国・地方公共団体等の委員会・審議会(それぞれの名称、業務内容、担当期間) 福井県漁業調整委員会委員 福井県の漁業に関わる規制等の審議・決定 2008年度以前～現在に至る 福井県資源管理協議会 外部有識者 資源管理計画の自主的管理措置の履行確認(計画的に資源管理に取り組む漁業者を支援)2018年～現在に至る 福井県敦賀港地方港湾審議会委員 敦賀港の計画変更の際の答申 2017年～現在に至る

⑥公開講座、オープンカレッジ、社会人・高校生向けの講座の開講（タイトル名、開催場所、開催日時）

入試説明会：美方高等学校（2022年7月12日）

## 6. 大学運営への参画

(1) 役職（副学長、部局長、学科長）

（職名、期間）

(2) 委員会・チーム活動

（名称、期間）

**【全学】**

キャリアセンター協議会

水産増養殖の新学科設置プロジェクトチーム

**【学部】**

学科再編ワーキンググループ

カリキュラムワーキンググループ

入試企画・オープンキャンパス担当3年次生アドバイザー

JABEE委員会

**【学科】**

オープンキャンパス

教職部会

(3) 学内行事への参加

（行事名、参加日時）

オープンキャンパス（2022年8月7日、2022年8月21日）

(4) その他、自発的活動など

（活動名、活動内容、活動期間）